

わが国におけるプロレス人気の回復に向けた一考察 —米国との比較をもとに—

A study on the restoration of popularity of Japanese professional wrestling

1K10C293 中島 健児

主査 作野 誠一 先生

副査 石井 昌幸 先生

【緒言】

近年のスポーツ界は、全般的に種目のレベルが上がっているのに対して、様々なスポーツにおいて放送枠の減少、視聴率の低下がみられるなど人気が落ちているように思われる。本研究で取り上げる「プロレス」は地上波放送が相次いで打ち切りになっている競技である。本研究では、何故日本のプロレス人気が落ちてしまったのか、またどのようにすれば人気回復するのかを、エンターテインメントとしてのプロレスが根付いているアメリカの例を参考にしながら明らかにすることを目的とする。このことによって、プロレスの人気回復はもちろんのこと、その他のスポーツの人気回復に対しても何らかの示唆を得たい。

【方法】

本研究では、主に文献調査の方法を採用する。第一にプロレスの歴史について調べ、成立過程の分析を通じてプロレスがどのような性質を持ったスポーツであるかを検討する。第二にアメリカと日本のプロレスの歴史と現状について調べ、これらを比較する。比較分析に用いる団体は、アメリカの「WWE」、日本の「新日本プロレス」「DDT プロレス」の3団体である。調査項目は①団体の基礎データ、②試合内容、③団体経営という3つの項目で、各項目に3～4の観点を設定して比較を行う。最後に、比較分析によって導出された日本のプロレス団体の問題点を解決するための提言を試み、その実現可能性について言及する。

【結果】

まず、プロレスの歴史を見ていくと、イギリスで古代レスリングから3つのスタイルのレスリングが作られた。その後、3つのスタイルのうちの一つである「ランカシャー・スタイル」がアメリカに伝わり「キャッチ・アズ・キャッチ・キャン・スタイル」に発展しアメリカ国内に広まった。しかし、試合内容が退屈であったために「演出」を行い試合内容を面白くしていった。そのために、プロレスでは演出という部分でレスリングとは大きく異なる。次に、アメリカと日本での歴史と現状について見ていく。アメリカでは「選手のキャラクター化」と「テレビ放送」を軸に発展していき、現在はWWEが市場をほぼ独占している。それに対して、日本のプロレスは「世

代闘争」というテーマと「危険技の応酬」で発展をみせ、現在では大小合わせて50以上の団体が濫立する状況である。本研究で取り上げた3団体の比較分析においては、「選手数の増加」、「テレビ放送」、「安全を保つための環境づくり」、「若手選手の育成機関」の4点において日本はアメリカよりも劣っていると考えられた。

【考察とまとめ】

日本のプロレスの人気回復のために二つの提言をする。一つめは、他の格闘技との交流をなくす事である。プロレスの発展において重要な要素であった「演出」という点において、プロレスは他の格闘技との特異性を持っている。そのために、演出のない格闘技と交流を持つことによって、多くの人々は違和感を持つことになってしまう。それをなくすためにも、他の格闘技との交流は極力避ける必要があると考ええる。

二つめは統括団体(協会)の立ち上げである。この団体を立ち上げることにより、「選手数の増加」、「テレビ放送」、「安全を保つための環境づくり」、「若手選手の育成機関」の4点に対応することができるのではないかと。また、各加盟団体の経営方針等についても厳しいチェックができ、しっかりとした経営ができるようになる。

こうした提言の実行にあたっての阻害要因は三つあると考える。一つめは、団体間での経営力の差による不参加団体の出現である。そうならないためには、それぞれの団体に参加するメリットを創出することで、参加団体を増やすことが可能であろう。二つめは、以前の統一団体の失敗である。これについては、統括団体内部の人事をこれまでとは全く違う制度にすることで解決出来るものと思われる。三つめは、ライセンス制度導入の厳しさである。この阻害要因を除去するには、統括団体内に専門部署を設けることが考えられる。また、ボクシングのライセンス制度の基準を参考にし、よりプロレスの内容に近いものを作っていく必要があるといえる。

現状では日本のプロレス人気の回復にはかなりの時間を要すると考える。しかしここ近年、マネジメントに力を入れ始めた新日本プロレスが売上を伸ばしていることから、決してそれは不可能ではないように思われる。日本のプロレス団体が一つとなって人気回復に向かうのが最善の方法ではないかと考える。